

# 漢文句法「詠嘆」確認テスト（嗚呼・豈不～哉） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾

## 解答・解説

---

問1 ああ／文頭の「嗚呼」は感動・嘆きをあらわす感嘆の語で「ああ」と読む。

問2 かな／文末の「哉」は詠嘆をあらわし「～かな」と読む。

問3 ああ、哀しいことだなあ。／文頭の感嘆「嗚呼」＋文末の詠嘆「哉」で、嘆きの気持ちを強くあらわす。

問4 ああ／「噫」も文頭の感嘆の語で「ああ」と読む。

問5 ああ／「嗟乎」も「ああ」と読む感嘆の語。「嗟」一字でも「ああ」と読む。

問6 亦説ばしからずや／「不亦～乎」は「亦～ずや」と読む。「説」は「悦」に同じで「よろこばしい」。

問7 なんと喜ばしいことではないか。（学んで適切なきにこれを復習する、なんと喜ばしいことではないか。）  
／「不亦～乎」は詠嘆で「なんと～ではないか」。

問8 亦楽しからずや／同じく「不亦～乎」の形。

問9 友人が遠方からやって来る、なんと楽しいことではないか。／「不亦楽乎」の詠嘆。

問10 亦君子ならずや／「君子」は名詞なので「君子なら（ず）」と読む。

問11 豈に痛ましからずや／「豈不～哉」は「豈に～ずや」と読む。

問12 なんと痛ましいことではないか。／強い詠嘆をあらわす。

問13 豈に誠に大丈夫ならずや／「大丈夫」は名詞なので「大丈夫なら（ず）」と読む。「誠に」は「ほんとうに」。

問14 なんとほんとうに立派な男子ではないか。／「豈不～哉」の詠嘆。

問15 かな／文末の「夫」も詠嘆をあらわし「～かな」と読む。

問16 かな／「賢哉」の「哉」も文末の詠嘆で「～かな」と読む。（語順は倒置で、もとは「回也賢哉」の心。）

問17 賢いことだなあ、顔回は。／賛嘆の詠嘆。主語「回」を後に置いた倒置で、賢さへの感動を強める。

問18 おおいなるかな／「大いなるかな」と読む詠嘆。

問19 ひどいなあ、わたしの衰えは。／「甚だしいかな、吾が衰へたるや」。「矣」「也」が詠嘆をそえる。

問20 ア（なんと～ではないか＝詠嘆）／形は問いかけに似るが、強い感動・賛嘆をあらわす。

問21 「豈に～ずや」は形のうえでは反語（どうして～ないだろうか）に似るが、答えを求めて問うているのではなく、話し手が強い感動・賛嘆をこめて「ほんとうに～だ」と言い切っている。文脈が嘆き・ほめたたえであるため、反語ではなく詠嘆と解釈する。

**問22** 夫・矣（順不同。「夫」は⑨、「矣」は⑫の文末で詠嘆をあらわす。「也」も可とする。）

**問23** 「嗚呼・噫・嗟乎」は文の初めに置いて、これから述べる内容に対する感動・嘆きを前もって示す。一方「哉・夫・也」は文の終わりに置いて、述べた内容を受けて余韻として詠嘆をそえる。前者は文頭で感情を起こし、後者は文末で感情を結ぶ点が異なる。

**問24** どちらも、形のうえでは打消や問いかけの語（不・乎・哉）を含みながら、実際には否定や疑問ではなく、強い肯定的な感動を「なんと～ではないか」と読み手・聞き手に訴えかける（反語的な言い回しで詠嘆を強める）はたらきをもつ。